

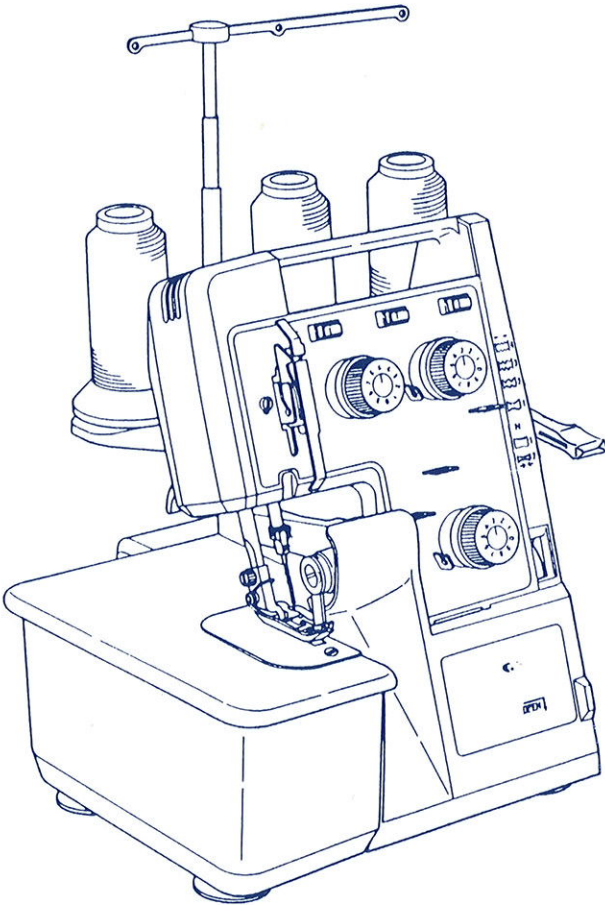
あこ〜でおん

ベビーロック

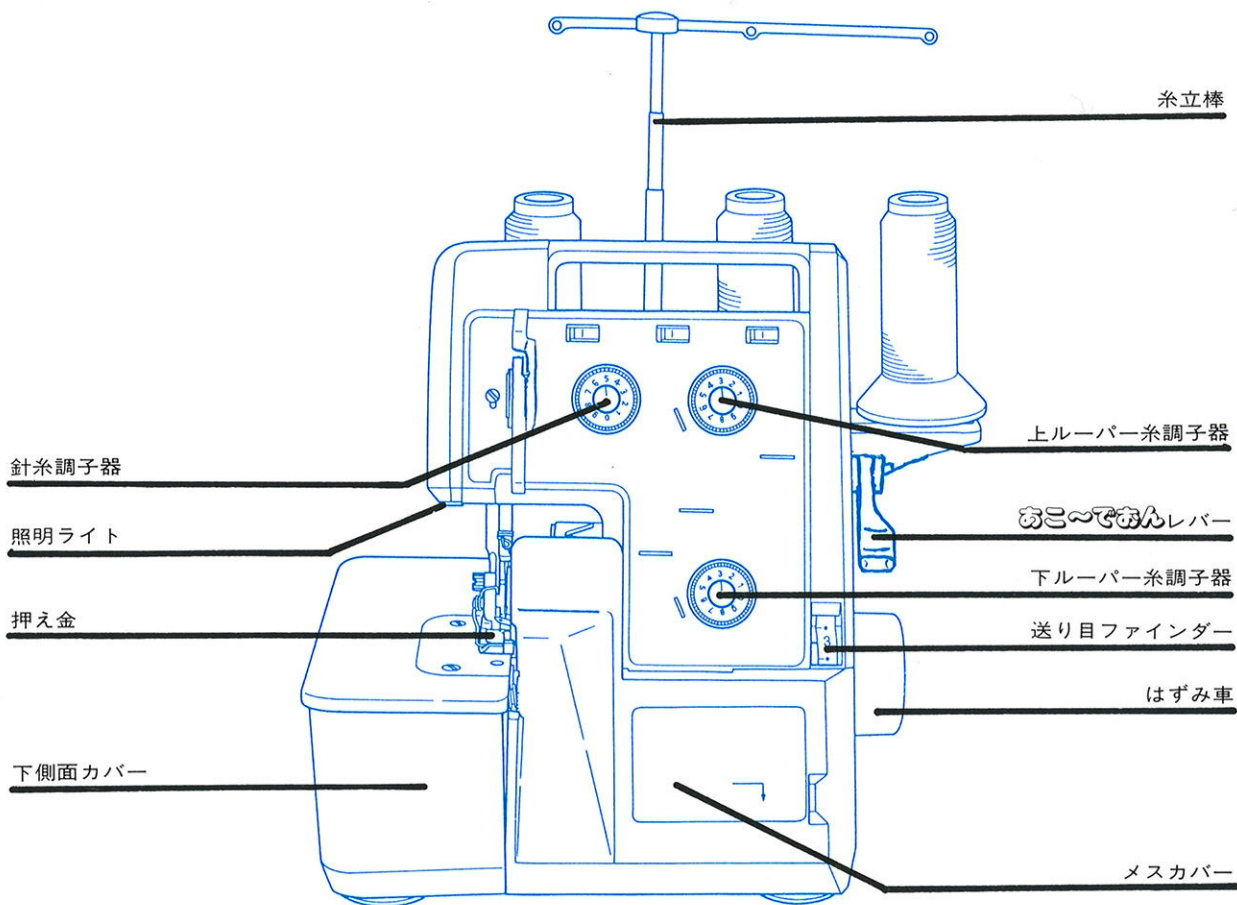
BL3-420DF型

ご使用のてびき

■ 3本糸ロック&巻きロックミシン ■



株式会社 ジューキ



- お買上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください)
- アフターサービスについてご不明な場合はお買上げの販売店、または下記の当社支店、営業所へお問合せください。

株式会社 ジューキ

本社 / 〒102 東京都中央区八重洲2-7-2
(八重洲三井ビル) TEL 03(272)2851

札幌011(737)6821 仙台0222(39)3705 新潟0250(43)4451 足利0284(41)5567 東京03(265)8741
静岡0542(82)2951 名古屋052(962)7631 大阪06(768)3651 倉敷0864(73)0355 広島082(227)5781 福岡0942(44)7921

はじめに

このたびはペビーロックをお買上げいただきまして、ありがとうございます。
このミシンの正しい使い方をご理解いただくために、このてびきを最後までよくお読みになり、保証書とともに必ず保存してください。

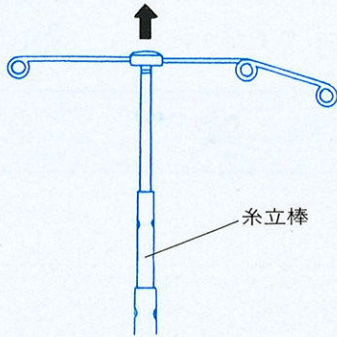
目 次

①縫うための準備	1
1-1. 糸立棒のセット	1
1-2. メスカバーと下側面カバーの開き方	1
1-3. 上メスの解除	1
1-4. コントローラーのセットと照明ライトスイッチ	2
1-5. 使用糸	2
1-6. 糸の簡単な交換	3
②縫い始めと縫い終わり	4
③糸のかけ方	5
④糸調子のとり方	7
⑤あこ〜でおんレバー操作	9
5-1. 普通縫いの場合	9
5-2. 縮み縫いの場合	10
5-3. 伸ばし縫いの場合	11
5-4. あこ〜でおんレバーの操作目安	12
⑥送り目の調節	13
⑦押え圧力の調節	13
⑧巻きロック縫いをする場合	14
⑨巻きロックの糸調子のとり方	15
⑩極厚物・段縫いをする場合（上メスロック）	16
⑪針の交換	16
⑫メスの交換	17
⑬照明ライトの交換	18
⑭注油	18
⑮布地と糸の関連表	19
⑯梱包明細	20
⑰仕様	20

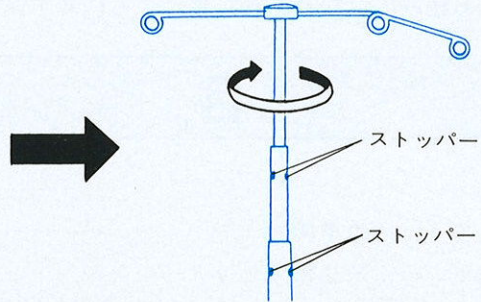
① 縫うための準備

1-1. 糸立棒のセット

① 糸立棒をいっぱい伸ばします。

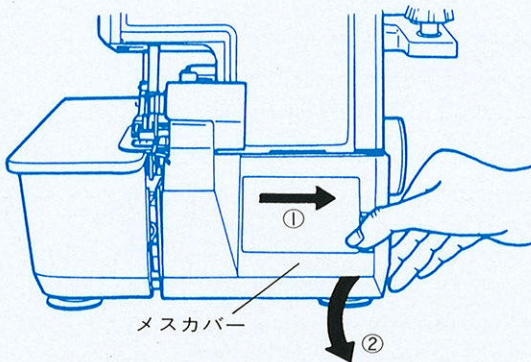


② 糸立棒を回転させてストッパーで固定します。

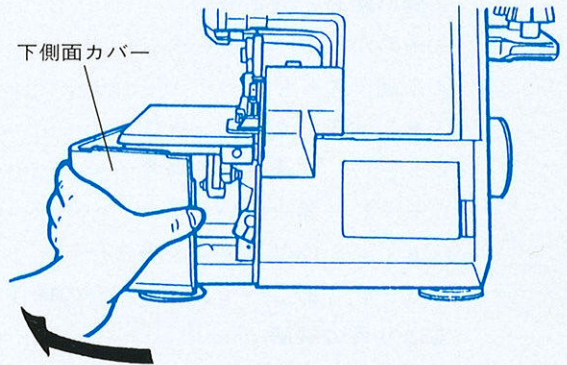


1-2. メスカバーと下側面カバーの開き方

メスカバーは右側に引いてから、手前に倒します。



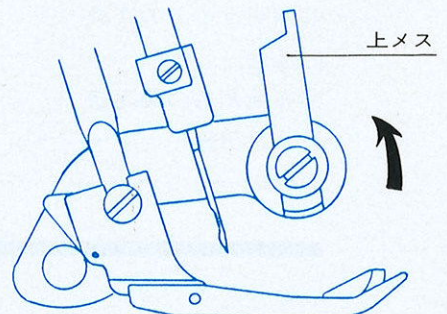
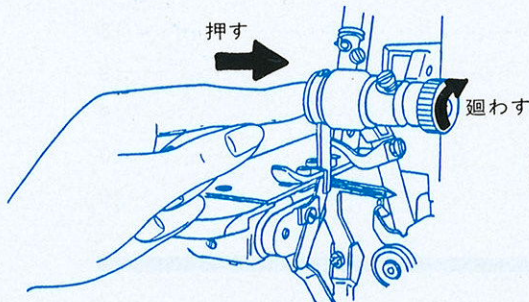
下側面カバーは左側に開きます。



1-3. 上メスの解除

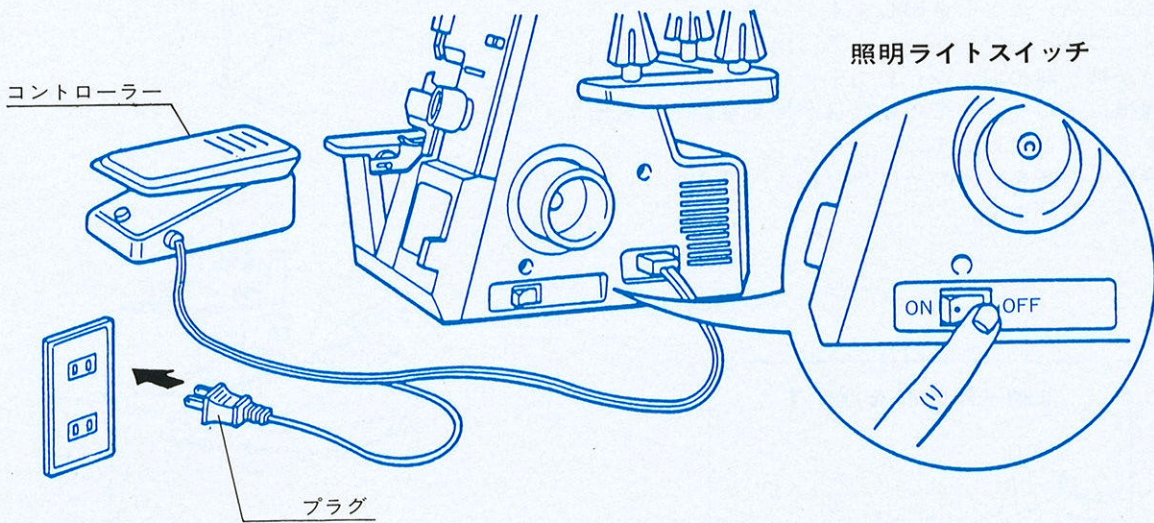
糸かけやメスを交換する際は、上メスを解除しておくと大変便利です。

上メスの解除は下図に従って下さい。(又、上メスを解除した場合は、元の位置に戻す事もおわすれなく。)



1—4. コントローラーのセットと照明ライトスイッチ

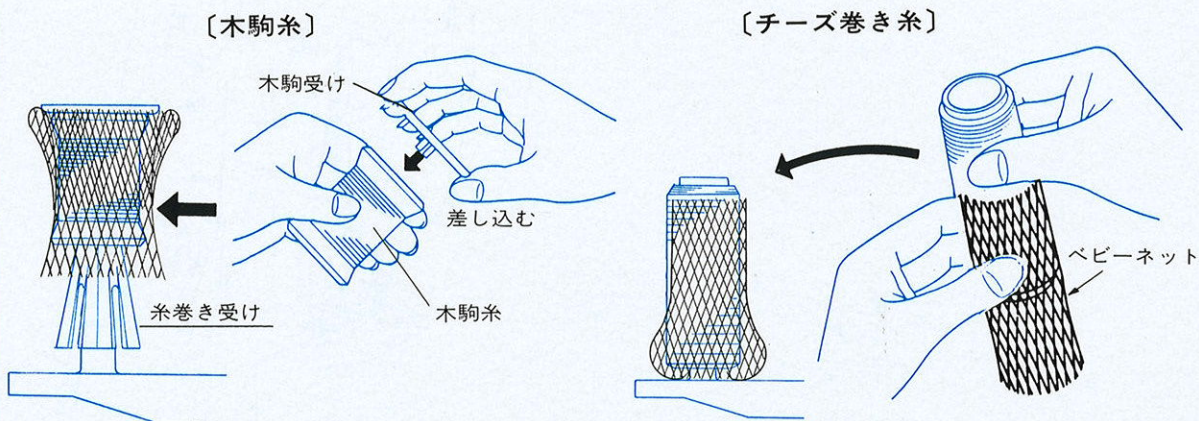
- ① コントローラーの電源プラグをコンセントに、もう一方をミシンの接続器に差し込みます。
コントローラーを弱く(浅く)踏むと速度は遅く、強く(深く)踏むと速くなります。
 - ② 照明ライトスイッチを「ON」にすると照明ライトは点灯し、「OFF」にすると消えます。
- ③ ミシン使用後は必ずコントローラーの電源プラグをコンセントより抜いて下さい。
又、コントローラーの上には物をのせないで下さい。



1—5. 使用糸

このミシンには普通チーズ巻き(又コーン巻き)の糸を使いますが、木駒糸もお使いになれます。
この場合、次のように付属の木駒受けを木駒の穴に差し込んで糸巻き受けの上ののるようにセットして下さい。

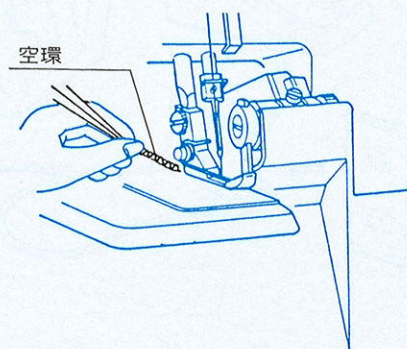
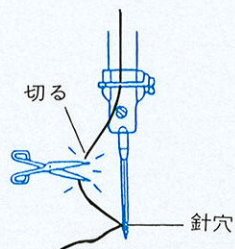
又、化繊糸などのほつれやすい糸は、付属のベビーネットをご使用下さい。



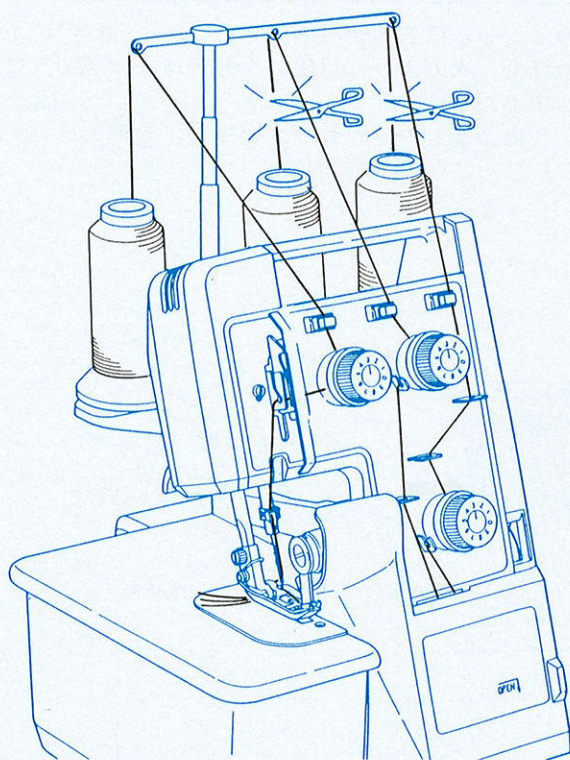
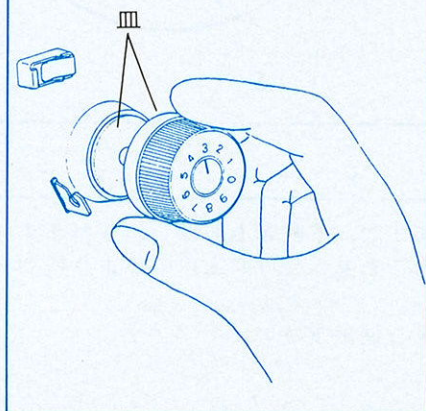
1—6. 糸の簡単な交換

このミシンはあらかじめ糸がセットされておりますが、色糸など別の糸と交換してお使いになる場合は、次のようにしていただくと、再び糸かけする事なく、簡単に糸の交換ができます。

- ① 針を一番上にあげます。
- ② 押え上げレバーで押え金を上にあげます。
- ③ 針穴の手前で針糸を切ります。
- ④ 上ルーパー糸及び下ルーパー糸を糸巻の近辺で切り、交換する糸に結び替えます。
- ⑤ 上ルーパー糸の結び目が押え金の下から出てくるまで、上ルーパー糸を引き出します。
(この時、結び目がスムーズに出てくるように、糸調子器の皿を浮かして下さい。)
- ⑥ 同様に下ルーパー糸の結び目が押え金の下から出てくるまで、引き出します。
- ⑦ 最後に針糸を好みの糸にかけ替え、押え上げレバーで押え金を下げます。

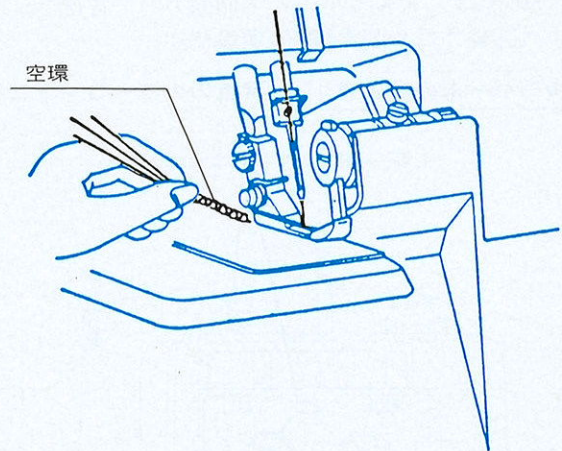


糸調子器の皿を浮かす

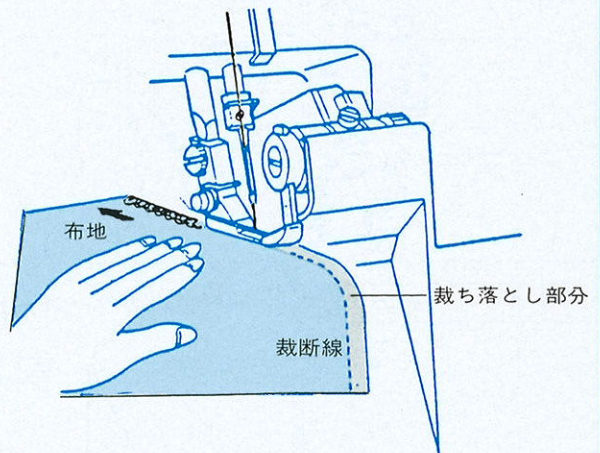


2 縫い始めと縫い終わり

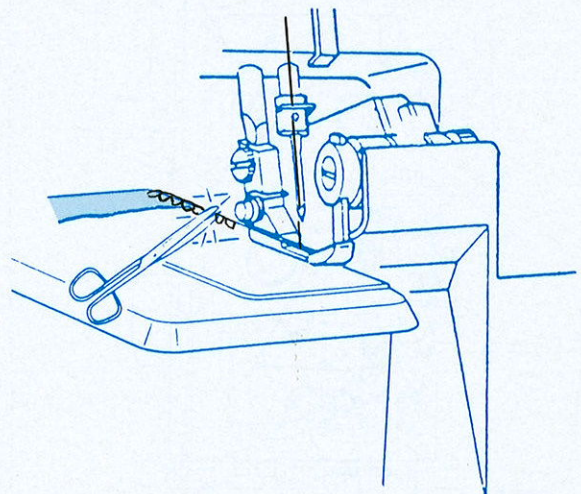
- ① 押え金の下から出ている糸を、左手で少し張り気味につまみ、右手ではずみ車を数回廻らし、空環を出します。



- ② 布地の裁断線を上メスに合わせて、コントロールローラーを軽く踏んで、縫い始めて下さい。



- ③ 縫い終わりは、布地の端から空環を約5cm位出して、はさみで切ります。



3 糸のかけ方

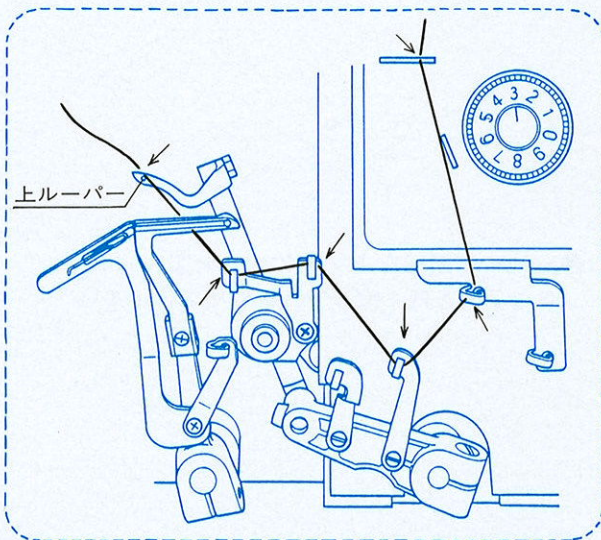
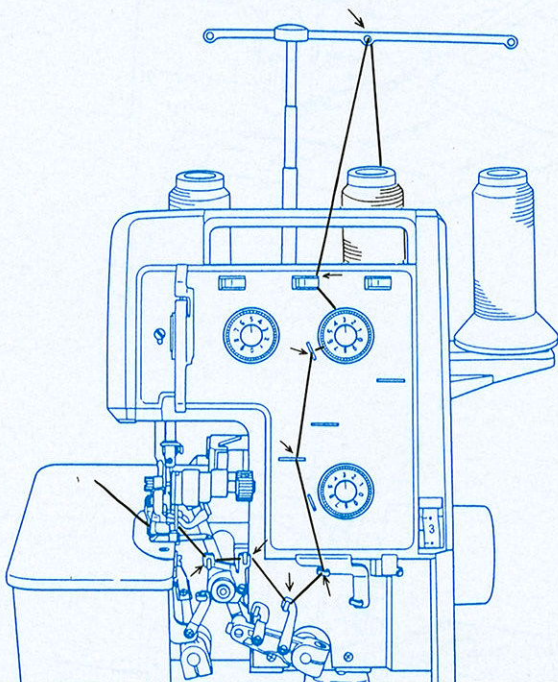
※糸は必ず、最初に真中(上ルーパー糸)、次に向って右側(下ルーパー糸)、最後に左側の糸(針糸)の順に正しくかけて下さい。

糸かけの際は、メスカバーと下側面カバーを開き、又、上メスを解除して下さい。

(P1.「①縫うための準備」の項参照。)

上ルーパー糸のかけ方

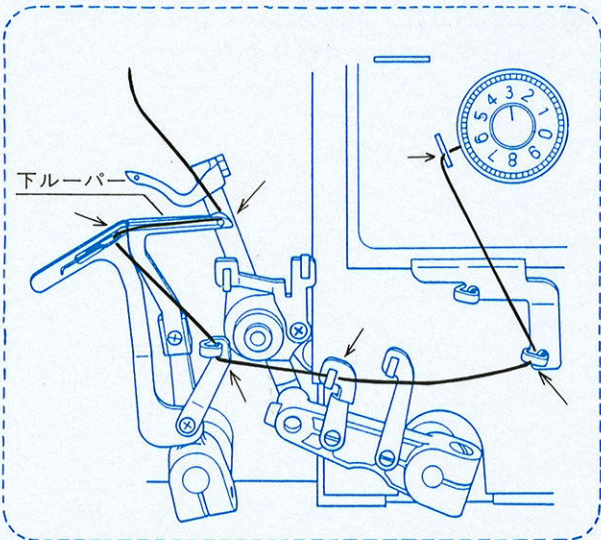
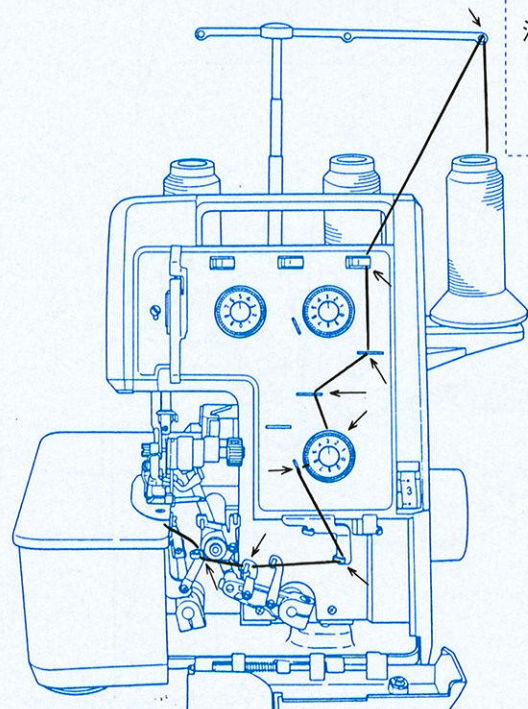
～黄色のカラーコードに従って糸をかけます。～



下ルーパー糸のかけ方

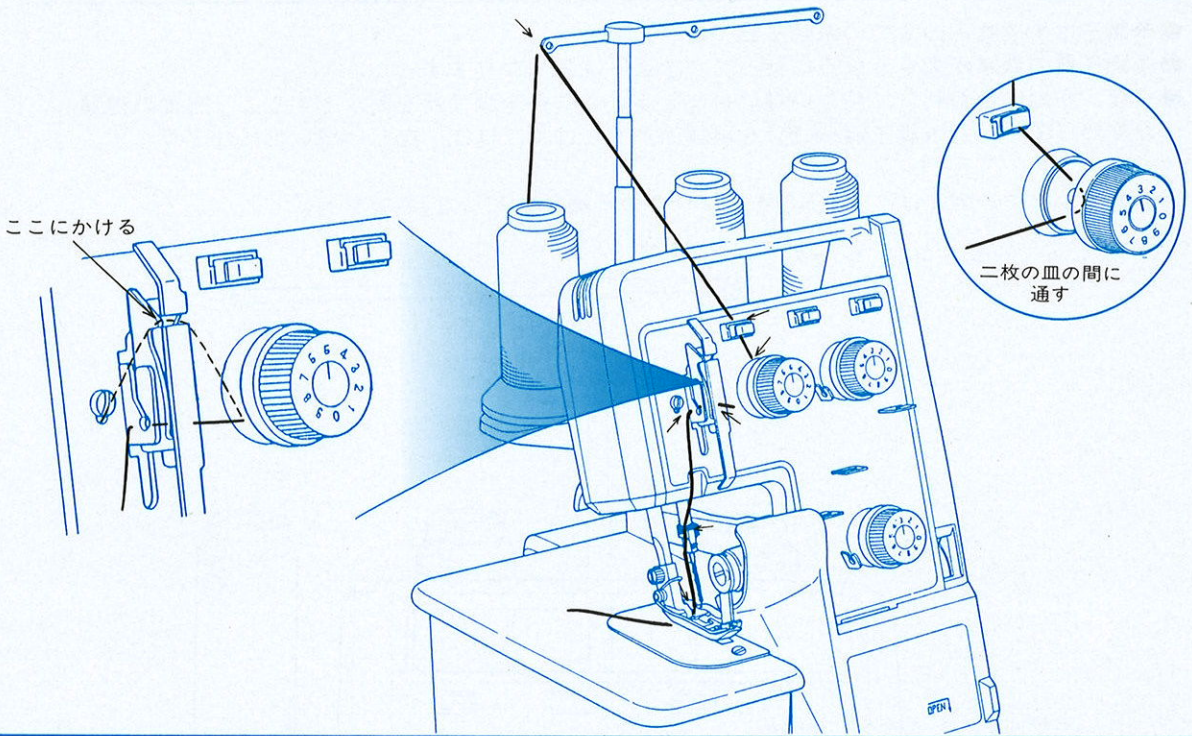
～緑色のカラーコードに従って糸をかけます。～

注) 下ルーパの糸だけ交換するとき、又再び通し直すときは、必ず針の糸を抜いてから下ルーパに通して下さい。



針糸のかけ方

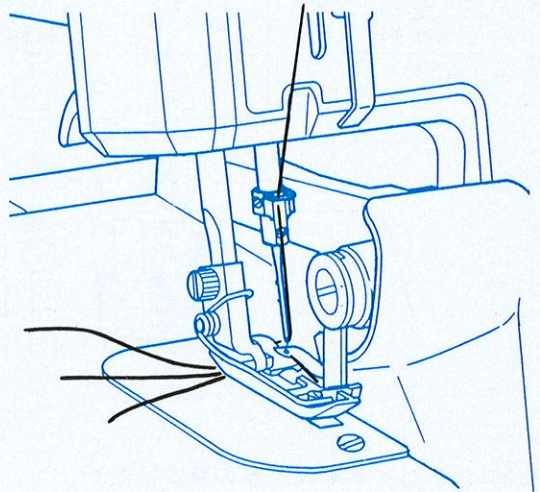
～朱色のカラーコードに従って糸をかけます。～



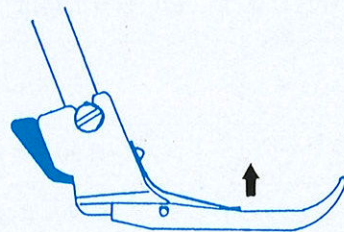
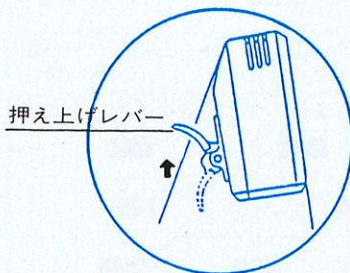
かけ終わった糸の始末

かけ終わった3本の糸は、最後に押え金の下を通して、押え金の左側に約10cm引き出しておきます。

縫い始めは、3本の糸を少し引張り気味につまみ、はずみ車を2～3回廻わして空環を出してから縫います。



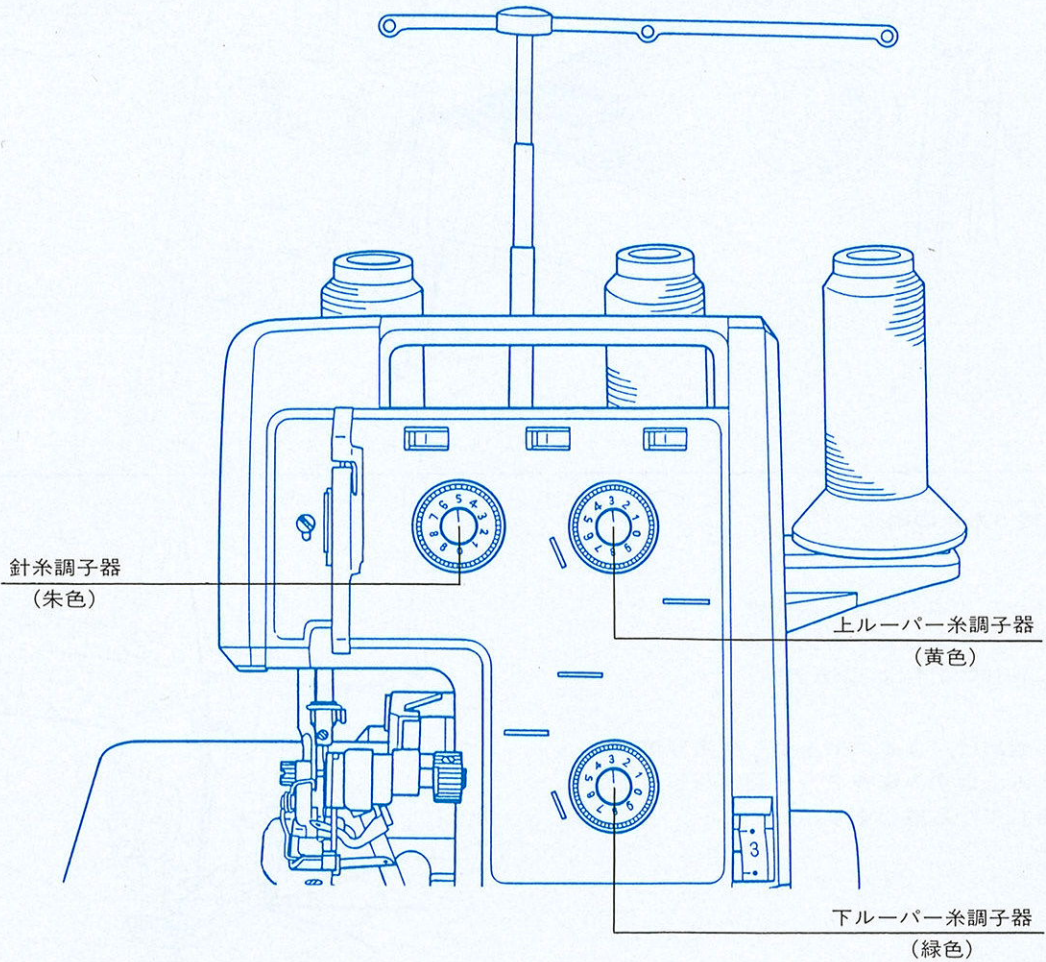
※押え金の下に糸を通す場合、押え上げレバーで押え金を上げて、行って下さい。



4 糸調子のとり方

- 糸調子は①②③色の3つの糸調子器でとります。
- 糸調子器の数字が大きくなるに従って、糸調子は強くなります。
- 一度、布地に合わせて、美しい縫い目になるように各糸調子器をセットすると、布地の種類が変わっても、針糸調子器(朱色)を再調節するだけで、ほぼ、美しい縫い目に仕上がります。

④巻きロックの糸調子は、P11「⑧巻きロックの糸調子のとり方」の項参照。

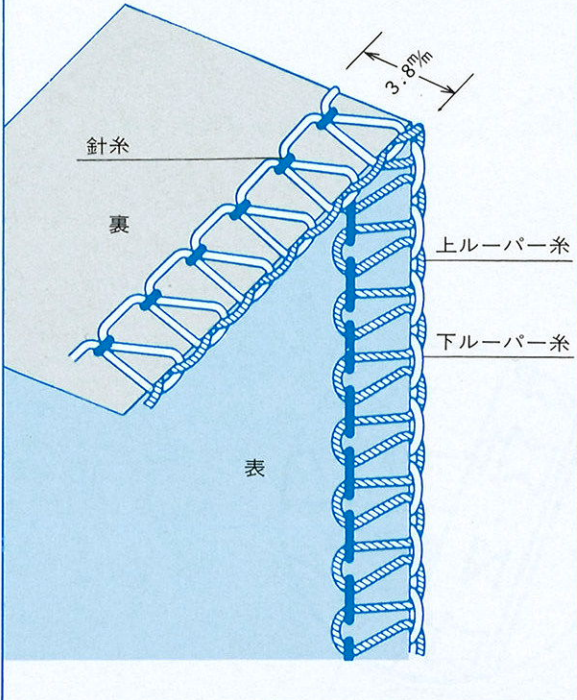


〔布地・糸に対する糸調子器の目安位置〕

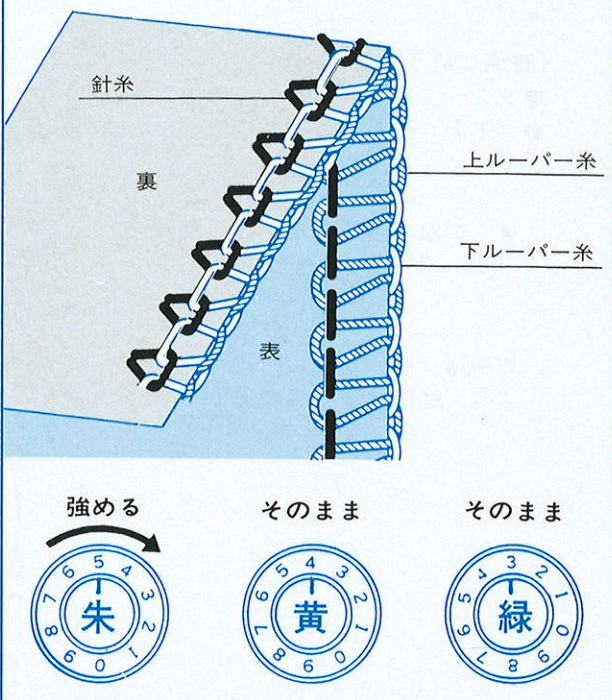
下表を目安に各糸の調子をとっていただくと、簡単に美しい縫い目がえられます。同じ素材でも、厚さや織りの違いで、美しい縫い目がえられる糸調子位置が、下表の範囲から外れる事もあります。縫い合せの時は、針糸調子器(朱色)を1~0.5目盛程度多くして下さい。

布 地	糸	針 糸 調 子 器 (朱 色)									上ルーバー糸調子器 (黄 色)									下ルーバー糸調子器 (緑 色)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
綿 ブ ロ ード ギ ン ガ ム	スパン#90~#60					■									■									■				
ジ ョ ー ゼ ッ ト	テ ト ロ ン # 8 0	■													■									■				
デ ニ ム ジャ ー ジ イ	ス パ ン # 6 0							■							■									■				

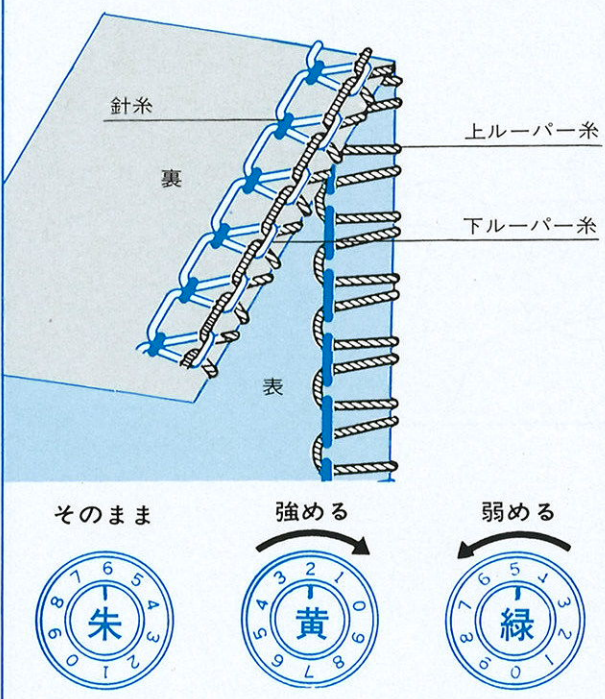
バランスのとれた美しい縫い目



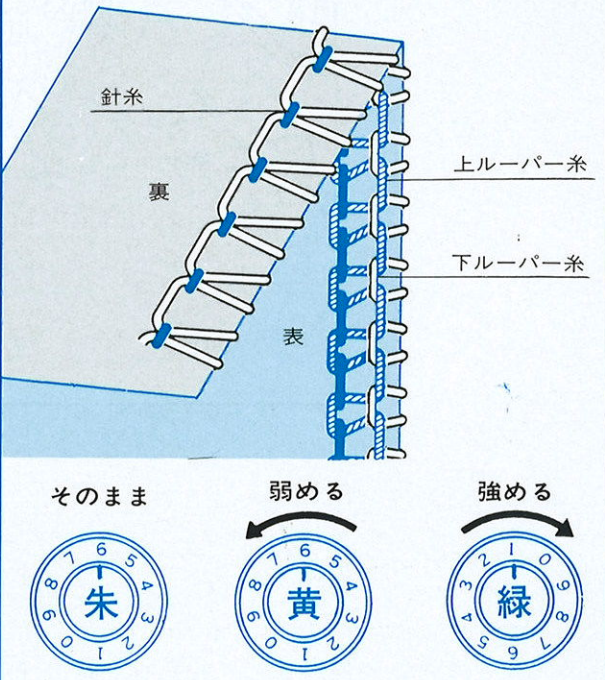
針糸が弱い場合



上ルーパー糸が弱い・又は下ルーパー糸が強い場合



下ルーパー糸が弱い・又は上ルーパー糸が強い場合



5 あこ〜でおんレバー操作

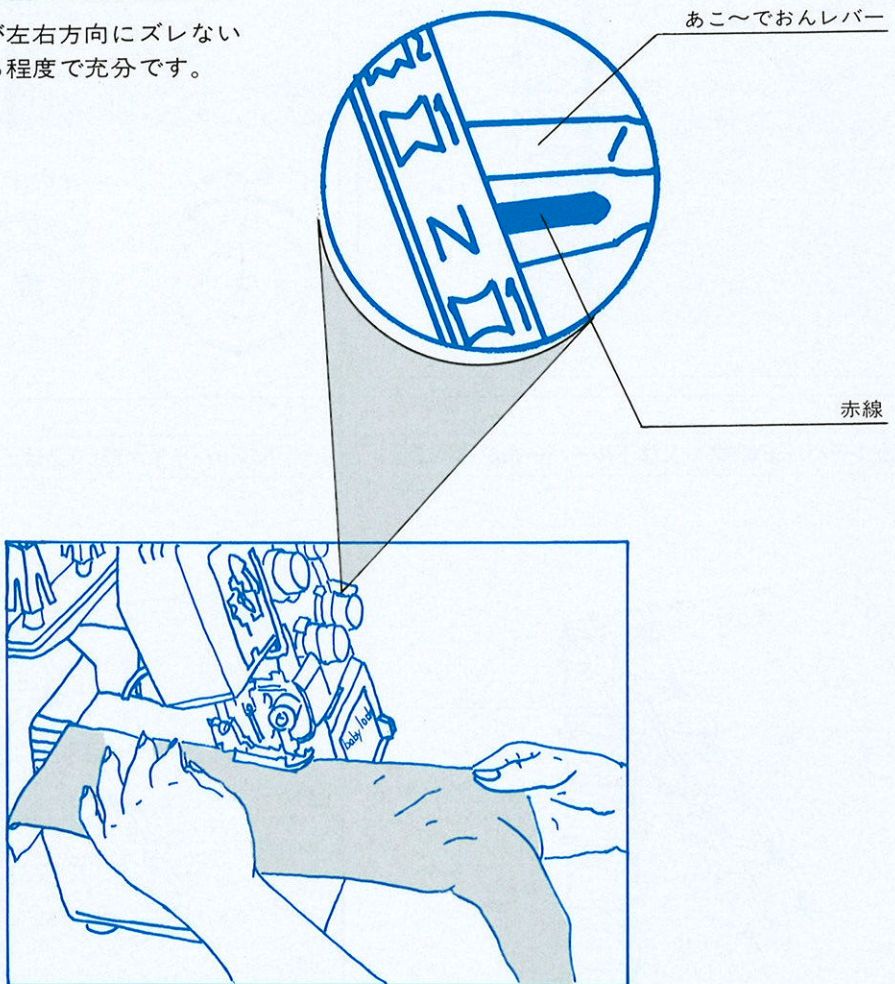
5-1

〔普通に縫う場合〕

- あこ〜でおんレバーの〔赤線〕を《N》の位置にします。
- (下図)のように、左手は生地の前の方を軽く押え、縫い速度に合せながら生地を案内します。

※この時、強く生地を押えたり
引っ張らないよう注意して下
さい。

右手は、生地が左右方向にズレない
よう、補助する程度で充分です。



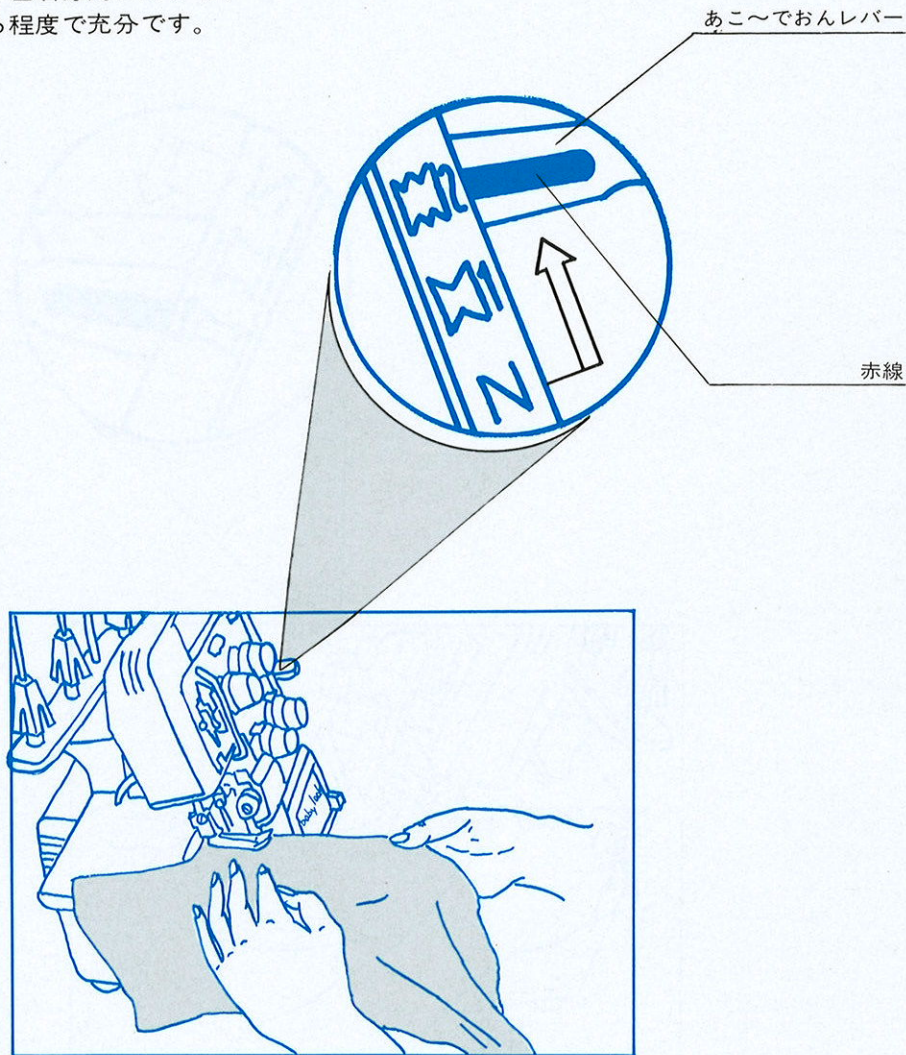
5-2

〔縮み縫いの場合〕

- あこ〜でおんレバーの〔赤線〕を《N》より上の位置にします。
- (下図) のように、左手は生地がズレ落ちないように、針落ち横方向を軽く押え縫い速度に合せながら生地を案内します。

※この時、強く生地を押えたり
引っ張らないよう注意して下
さい。

右手は、生地が左右方向にズレない
よう、補助する程度で充分です。



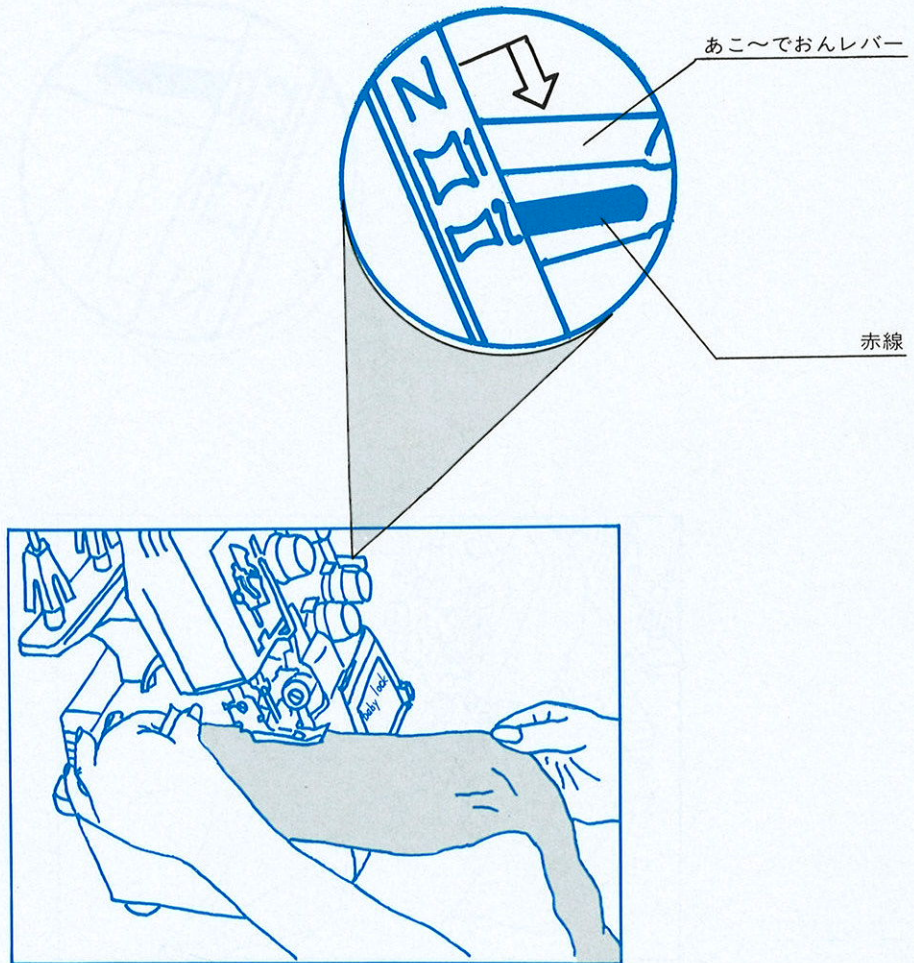
5-3

〔伸ばし縫いの場合〕

- あこ〜でおんレバーの〔赤線〕を《N》より下の位置にします。
- (下図) のように、左手で生地の前の方をつかみ、縫い速度に合わせて軽く引きます。

※この時、強く生地を引っ張らないよう注意して下さい。

右手は、生地が左右方向にズレないように、補助する程度で充分です。



5-4

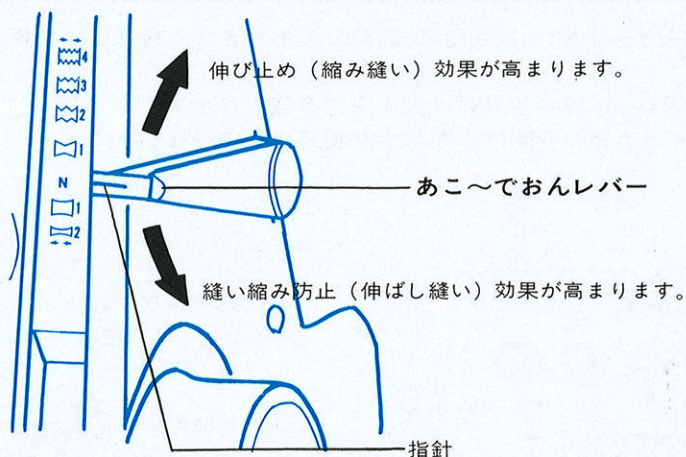
〔あこ〜でおんレバーの操作〕

ニット地をはじめバイヤス部分など、伸びて縫い上がりが波をうってしまう様な生地は、レバーを《N》より上にして、縮み縫いにすると、たいらに仕上がります。
逆に、薄地のふちかがりや巻きロックなど、縫い縮みしやすい生地を縫う時は、レバーを《N》より下にして伸ばし縫いにするときれいに仕上がります。

〔縮み縫い・伸ばし縫いの目安位置〕

あこ〜でおんレバー使用例 (こんな時に レバーを使います)	レバーの操作	レバーの目盛	送り目の長さ
スムーズ・メリヤスの 縫い合せ	縮み縫い (Nより上にする)	1 ~ 2 ↑ N	2.5
編み地等の縫い合せ	"	3 ~ 4 ↑ N	2.5
フレアスカートヘムの いせ込み	"	2 ~ 3 ↑ N	3
フリルギャザー	"	4 一番上 ↑ N	4
薄地のふちかがり	伸ばし縫い (Nより下にする)	1 N ↓	3
巻ロック	"	1 ~ 2 N ↓	M (1.5)

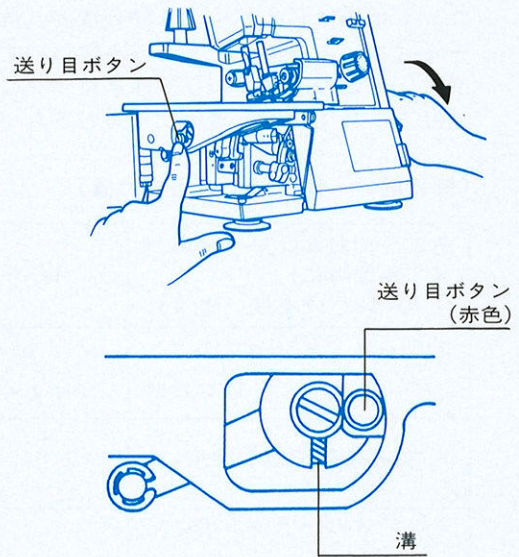
※同じ素材でも、厚さや織り方向で伸び・縮み量は異なりますので、伸びてしまう時はレバーをNより上に、縮んでしまう時は、レバーをNより下に動かして下さい。
あこ〜でおんレバーは、縫いながらでも自由自在に操作できるようになっています。



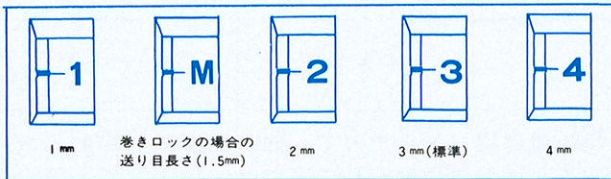
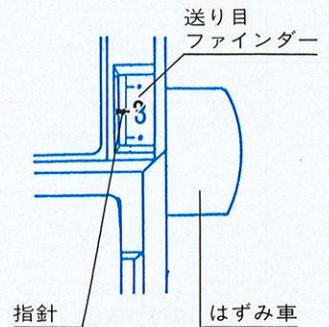
6 送り目の調節

※送り目の調節は、「送り目ファインダー」を見ながら、「送り目ボタン」と「はずみ車」で行ないます。

- ① 下側面カバーを開きます。
- ② 左手で送り目ボタン(赤色)を強く押しながら、溝に送り目ボタンがパチンと入り込むまで、右手ではずみ車を廻わします。



- ③ 送り目ボタンが溝に入ったまま(送り目ボタンを押し続けた状態で)、再びはずみ車を廻らし、ミシン正面右下の送り目ファインダーの指針に、希望の送り目を合わせます。

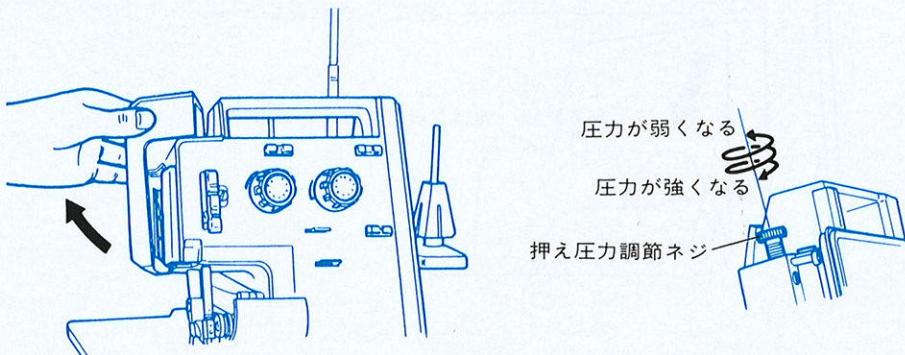


7 押え圧力の調節

このミシンはすでに押え圧力を標準(中厚物用)に調節してあります。極薄物、極厚物の場合にのみ調節してください。

薄い生地には押え圧力を弱くし、厚い生地には押え圧力を強くします。

押え圧力の調節は照明ライトカバーを開け、押え圧力調節ネジで行ないます。

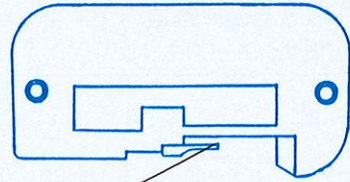


8 巻きロック縫いをする場合

針板の交換

- ① 針を一番上にあげます。
- ② 押え金を取り外します。
- ③ 針板止ネジ(A)、(B)を外します。
- ④ 針板を付属の巻きロック用針板に交換して下さい。
- ⑤ 針板止ネジ(B)と(A)を締めます。
- ⑥ 最後に押え金を取り付けます。
〔押え金の取り付け〕参照。

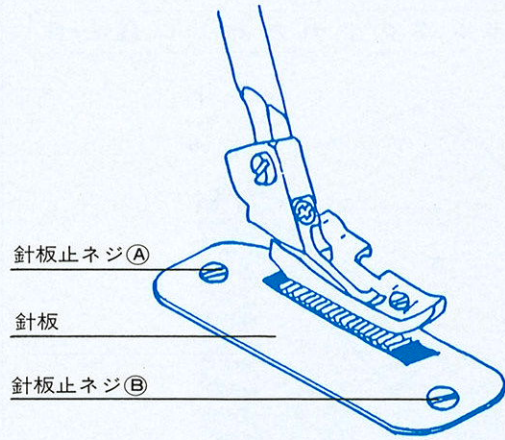
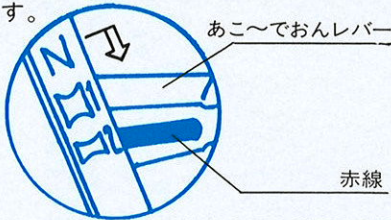
付属の巻きロック用針板



巻きロック用針板はこの部分が細い

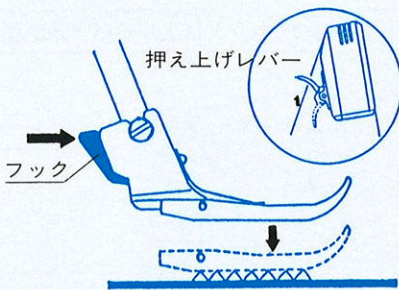
〔あこ〜でおんレバー〕

巻ロック縫いのときは、レバーをNから下の1〜2にすると生地が伸ばされ、きれいに仕上がります。



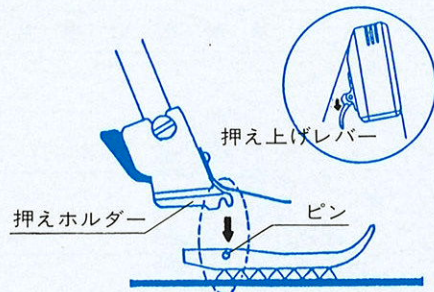
〔押え金の取り外し〕

- ① 押え上げレバーで押え金を上げます。
- ② フックを押し、押え金を外します。



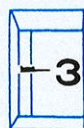
〔押え金の取り付け〕

- ① 押え金のピンが、押えホルダーの真下にくるように置きます。
- ② 押え上げレバーを下げて、ホルダーと押え金を取り付けます。



送り目のセット

巻きロックをする場合は、送り目を必ずMに合わせて下さい。(P 9.「⑤送り目の調節」の項参照)



3 mm (標準)



巻きロックの場合の
送り目長さ (1.5mm)

9 巻きロックの糸調子のとり方

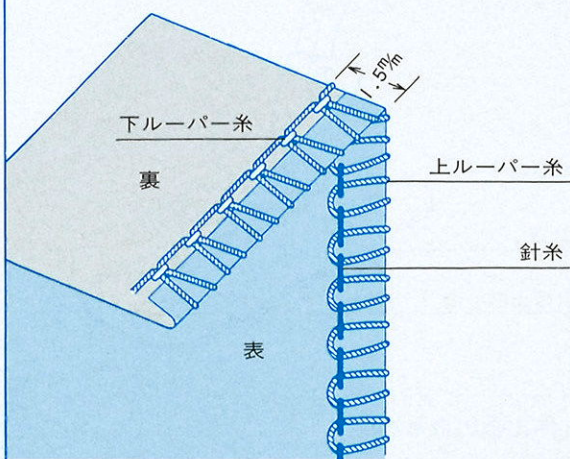
〔布地・糸に対する糸調子器の目安位置〕

下表を目安に各糸の調子をとっていただくと、簡単に美しい縫い目がえられます。

同じ素材でも、厚さや織りの違いで、美しい縫い目がえられる糸調子位置が、下表の範囲から外れる事もあります。

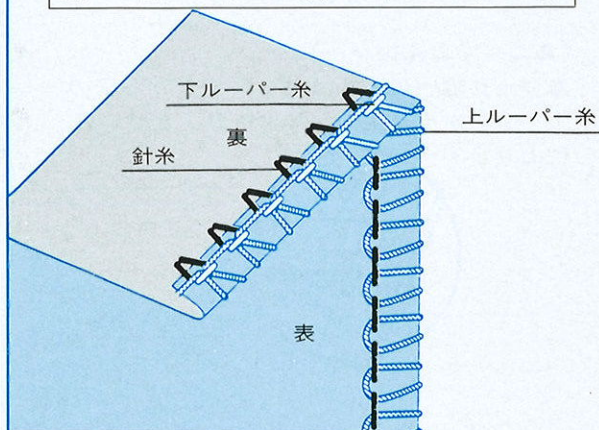
布 地	糸	針 糸 調 子 器 (朱 色)									上ルーパー糸調子器 (黄 色)									下ルーパー糸調子器 (緑 色)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ジョーゼット	テترون #80 ウーリーナイロン																											

バランスのとれた美しい縫い目



巻きロックの場合、上ルーパー糸が布地の裏側にまわり込みます。

針糸が弱い場合



強める



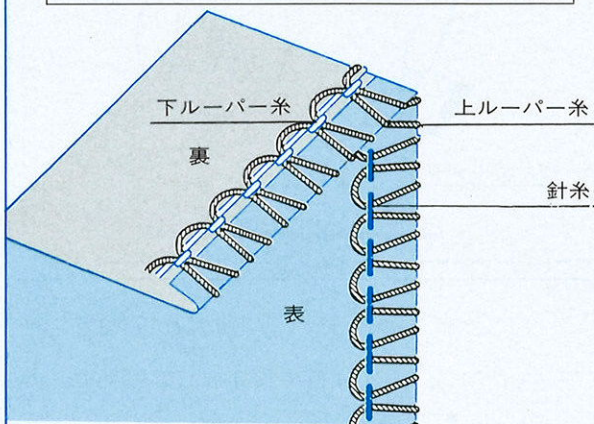
そのまま



そのまま



上ルーパー糸が弱い場合



そのまま



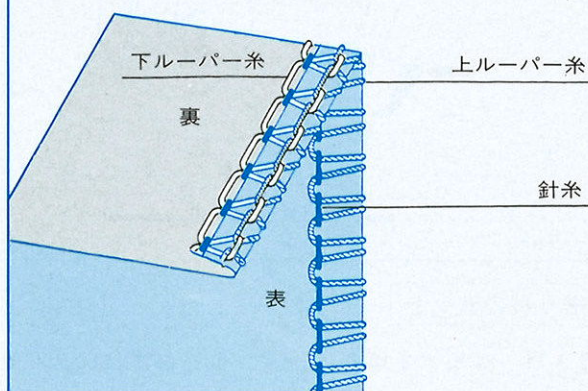
強める



そのまま



下ルーパー糸が弱い・又は上ルーパー糸が強い場合



そのまま



弱める

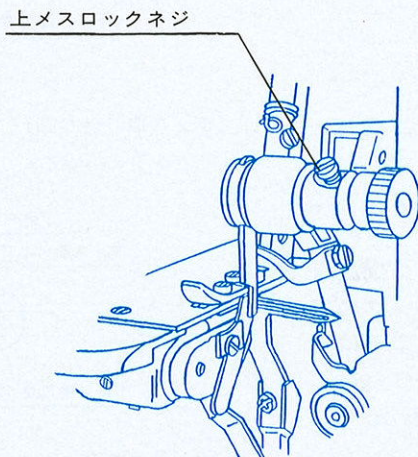


強める



10 極厚物・段縫い(上メスロック)

極厚物・段縫いをする場合、右図の上メスロックネジを締めて（右廻し）ご使用になりますと、メス逃げがなく、スムーズに裁断できます。
 ※上メスロックネジは、上メス最下点で締めて下さい。



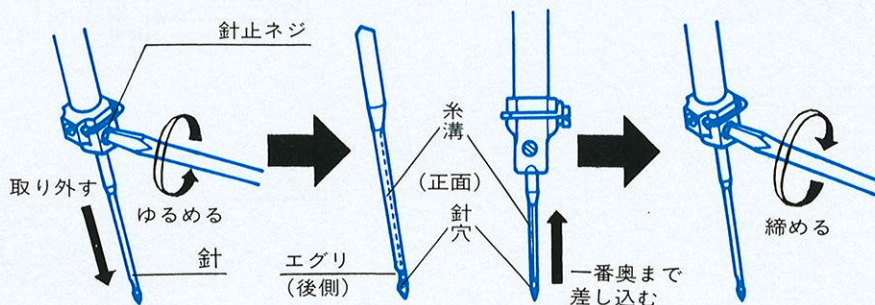
⑨ 中厚物・薄物の場合は、必ず上メスロックネジをゆるめて（左廻し）ご使用下さい。

11 針の交換

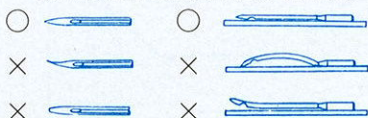
このミシンの使用針DC×IFは、取付面が平になっていますので、取付面を後向きにすれば、まちがいをなく取付けることができます。

※針の交換は、必ず電源プラグを抜いてから作業して下さい。

①針を一番上にあげます。②針止ネジをゆるめて針を外します。③新しい針を針棒の穴の奥まで差し込みネジ止めします。



—先につぶれた針や曲った針は交換してください—



このミシンの使用針DC×IFは11番又は14番です。使用針を間違えますと縫えませんので、針購入の際は、必ず『DC×IF』とご指定ください。

【使用針DC×IFは、最寄りの販売店に常備してあります】

- 薄物・普通地～11番を使用する。
- 厚物 ～14番を使用する。

12 メスの交換

はじめに必ず電源プラグを抜いてから作業して下さい。

メスは消耗品です。メスが切れなくなった場合は、通常下メスを交換して下さい。

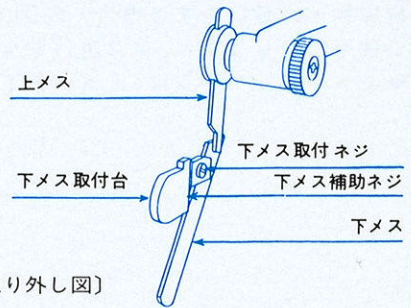
1 下メスの交換

- (1)メスカバー、下側面カバーを開く。
- (2)上メスを上に回転させる。
- (3)下メス補助ネジを左に45度($\frac{1}{8}$ 回転)廻わして、下メスの押し付けを解除する。
- (4)下メス取付ネジをゆるめて、下メスを下に抜く。
- (5)新しい下メスを下メス取付台のメス溝に合わせて、下から上に差し込み、下メスの刃先が針板の上面と同じ高さになるようにして、下メス取付ネジを締めつける。
- (6)下メス補助ネジを右に45度($\frac{1}{8}$ 回転)廻わして、下メスを押し付ける。
- (7)上メスを元の位置に戻す。
- (8)メスカバー、下側面カバーを閉じる。

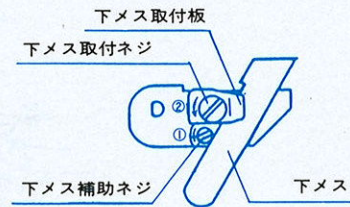
2 上メスの交換

上メスは長寿命の特殊な材質で出来ていますので、通常交換の必要はありません。

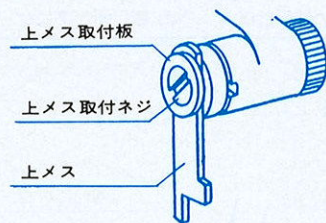
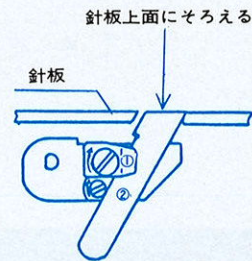
- (1)メスカバーを開く。
- (2)はずみ車を廻わし、上メスを最下点にする。
- (3)上メス取付ネジをゆるめて、上メスを下に抜く。
- (4)新しい上メスを上から差し込む。
- (5)上メスの手前刃先が、下メスの刃先に対して、1%程度かみ合うように位置決めし、上メス取付ネジを締めつける。
- (6)メスカバーを閉じる。



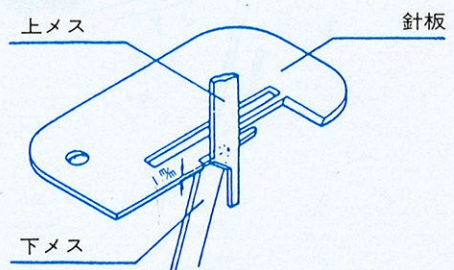
〔下メス取り外し図〕



〔下メス取付図〕



〔上メス取付図〕

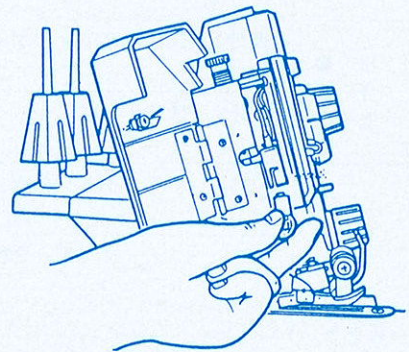
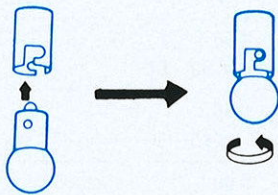
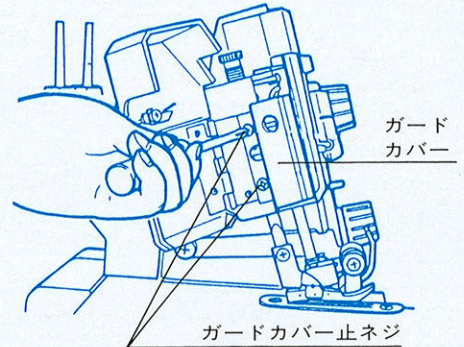
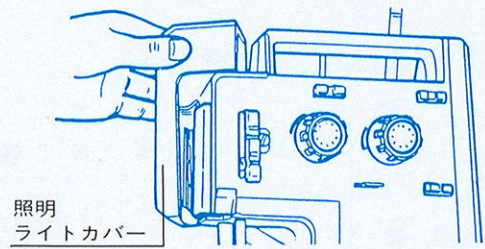


13 照明ライトの交換

※ライトの交換は、必ず照明スイッチを「OFF」にしてから作業して下さい。

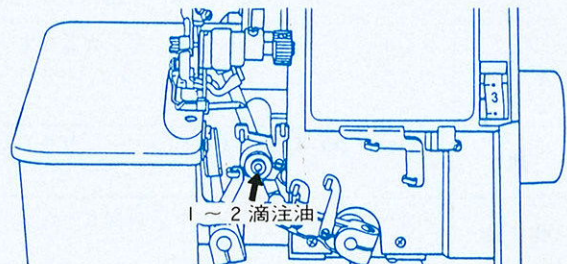
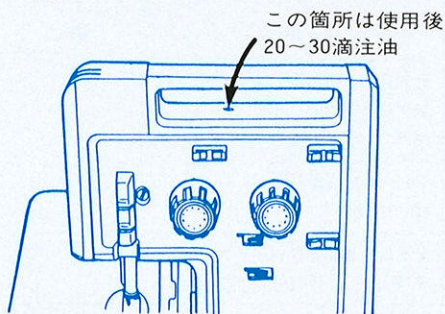
- ①最初に照明ライトカバーを開きます。
- ②ガードカバー止ネジ(2本)をゆるめて、ガードカバーを外します。
- ③古いライトを外し、新しいライトを取付けます。
- ④ガードカバーを取付けます。
- ⑤最後に照明ライトカバーを閉めて下さい。

⑥注ライトご購入の際は、古いライトを持参し、同一のライト(12V6W)とご指定下さい。



14 注油

図に示した箇所に定期的に注油しますと、ミシンがより長持ちします。



15 布地と糸の関連表

〔普通ロックの場合〕

	布地の種類	糸	針
木綿 麻	〔薄地〕 ボイル、ローン、ブロード、ギンガム、亜麻など	スパン #90	DC×1F #11
	〔厚地〕 オックスフォード、デニム、キルティング、ギャバジンなど	スパン #90~60 綿 #80~60	DC×1F #11、14
絹	デシン、クレープ、オーガンジー、サテンなど	絹 #100 テトロン #100	DC×1F #11
毛	〔薄地〕 トロピカル、ポーラ、ポプリンなど	スパン #90 テトロン #80 綿 #80	DC×1F #11
	〔普通地〕 サージ、ギャバジン、フラノなど	スパン #90~60 テトロン #80~60 絹 #50	DC×1F #11、14
	〔厚地〕 ベロア、キャメル、アストラカンなど	スパン #60 テトロン #60~50 絹 #50 綿 #60~50	DC×1F #14
化繊 混紡	〔薄地〕 ジョーゼット、ボイル、サテンなど	スパン #90 テトロン #100	DC×1F #11
	〔厚地〕 タフタ、ツイル、ベネシャンなど	スパン #90 テトロン #80~60	DC×1F #11、14
ニット	トリコット（化繊、合繊）	スパン #90 テトロン #80~60	DC×1F #11
	ジャージ（毛、合繊）	スパン #60 テトロン #60 ウーリー糸（ナイロン・テトロン）	DC×1F #11、14
	毛糸編地	スパン #60 テトロン #60~50 ウーリーナイロン ウーリーテトロン 極細毛糸	DC×1F #14

〔巻きロックの場合〕

上ルーパー糸に、巻ロック用のウーリーナイロン糸を使うと、きれいに仕上がります。

	布地の種類	糸	針
木綿	ボイル、ローン、ブロード、ギンガムなど	テトロン#80とウーリーナイロン スパン #90~80 テトロン #80	DC×1F #11
絹	デシン、クレープ、オーガンジー、サテンなど	テトロン #100 絹 #100	
化繊	ジョーゼット、ボイル、サテンなど	テトロン#80とウーリーナイロン テトロン #100	

16 梱包明細

1. ミシン

2. コントローラー

3. 頭部ビニールカバー

4. ご使用のてびき

5. 保証書

6. アクセサリーケース

- 巻きロック用針板
- 針 (DC×1F)
- 下メス
- 木駒受
- ヘビーネット
- ピンセット
- マイナスドライバー(大)
- マイナスドライバー(小)
- 掃除用ブラシ
- 油差し

17 仕様

- かがり幅……………普通ロック4.0 m/m 、巻ロック1.5 m/m
- 送り目の長さ……………1～4 m/m
- あこ〜でおん率……………0.7～2.0 (伸ばし・縮みの比率)
- 上メスストローク……………6.6 m/m
- 押え上り量……………5.0 m/m
- 使用糸本数……………3本
- 使用針……………DC×1F (#11、#14)
- 照明ライト……………12V 6W
- 縫い速度……………毎分1,500針 (常用)
- ミシンの大きさ……………255 m/m ×310 m/m ×305 m/m
- ミシンの重さ……………6.5kg (モーター付完成品)

